



↑人見地区の自主勉強会に南野救命小隊長とともに参加し、救命技術を講習。昨年の福智町防災講演会では当時を振り返り、言葉を詰まらせながらも体験した悲惨な実情を伝えた。

若いときは自分の手で全ての命を救う、そう思っていました。しかし救命に携わり20年、人の死を身近に感じ、後悔と悔しさを経験してきた中で、自分だけの力に限界を感じました。我々消防士には日々培っている技術と経験がある。一般のかたでも使える救命の術も知っています。私が伝えることが緊急時に少しでも役立ち、一つでも多くの命

が助かれればと今は考えています。広域で同時多発する災害時、限られた人数の「公助」には限界があります。その時に生きるのが日頃からの備えである「自助」と、周りの助け合い「共助」です。しかし救助者が要救助者になることは絶対に避けなくてはなりません。限界を知り、できないと判断したときは自分の命を優先し、我々を頼ってください。全力で救助に当たります。

**持てる経験・技術・知識
伝えることで救う命**

から自然災害の前では、どんな経験も通用しません。親しい人の命を失ったとき、誰もが十字架を背負う。そうならないためにも、身を守ることを最優先に考えてください。

金田6区(人見)区長 / 福智町消防団長
松山 榮治さん

毎年雨期になると冠水の危機を迎える人見地区のために自主勉強会を行いました。過去に聞いた二場さんの言葉が強く心に残り、今回講師としてお招きしました。これをきっかけにさらに深く話し合い、地域防災に生かしていきたいです。



過去の教訓を学び、生かしていくために

福智町防災講演会 **参加無料**

日時 **6月23日**
10:30 ~ 12:00

場所 福智町地域交流センター
(伊方4478番地1)

演題 「災害多発時代にKBCが自治体とともに取り組んでいること」
講師

KBC九州朝日放送株式会社
防災ネットワーク担当

太田 祐輔氏

テレビやラジオで活躍し、アナウンス部長も経験。どうすれば一人でも多くの命を救う報道ができるのか、常に問いかけながら日々を過ごす防災部門の解説委員。



災害時、情報の収集と共有は何よりも重要になります。高齢者や病気がかたなど、すぐに動けない人もいます。避難経路や連絡網を事前に地域で確認しておくこと、また住民間の意見を集約し、我々や行政など公的機関との情報交換を日頃から行うことで、命が助かる可能性は高まります。

重要性を伝えていきます。また常に最悪の事態を想定すること。増水時に田畑や川など見に行くのは絶対にやめてください。いざという時、命を守るのは人とのつながりと早めの避難です。そのことを決して忘れないでください。



↑昨年の福智町での豪雨時、町民からボートを借りた消防隊が救助を実施。これが共助の際たる例と二場さんは強調する。



↑朝倉市に派遣された消防職員たち。災害発生時には、全国から応援隊が派遣される。



かけがえのない命のために
もう一度考えたい3つの「助」

常に救助者として、命と向き合い続ける消防士。災害時、どのように対応し、どう備えるか。朝倉市で悲惨な現実を目の当たりにした金田分署の二場小隊長に伺います。

救命の最前線から

インタビュー / 消防士 / 田川地区消防 金田分署所属 **二場 祐介さん**

二場 祐介 Yusuke Futaba
前任の田川地区消防本署所属時に、特別救助小隊長として朝倉市への災害派遣を経験。現在は金田分署消防小隊長として勤務。強い責任感と部下を思う指導で信頼も厚い。

